

教科	科目	単位数	教科書	使用教材	対象
数学	数学 I	4	改訂版 数学 I (数研出版)	改訂版 サクシード数学 I +A	全学年

	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点・方法	予定時数
前期中間まで	数と式 式の計算 1. 整式 2. 整式の加法と減法および乗法 3. 因数分解 4. 実数 5. 根号を含む式の計算 6. 1次不等式 7. 1次不等式の利用	単項式や多項式、整式、同類項、次数について理解している。 ある文字に着目して整式と同類項をまとめ、整理することができる。 整式の加法・減法の計算をすることができる。 因数分解の公式を利用できる。 次数の最も低い文字に着目して降べきの順に整理し、因数分解ができる。 有理数、無理数、実数について理解している。 不等式の性質を理解し、1次不等式を解くことができる。	定期考査、提出物 授業への取組等により問題処理力や理解力意欲等について評価する。	36
前期期末まで	集合 命題と条件 命題と証明 2次関数 2次関数とグラフ 関数とグラフ 2次関数のグラフ 2次関数の最大と最小 2次関数の決定	共通部分、和集合、空集合、補集合について理解している。 ド・モルガンの法則を利用できる。 必要条件、十分条件、必要十分条件、同値の定義を理解している。 2次関数のグラフの軸、頂点について理解している。 $y=a(x-p)^2+q$ の形に変形し、最大値、最小値を求めることができる。 与えられた条件から2次関数を決定することができる。	定期考査、提出物 授業への取組等により問題処理力や理解力意欲等について評価する。	36
後期中間まで	2次方程式と2次不等式 1. 2次方程式 2. グラフと2次方程式 3. グラフと2次方程式 図形と計量 1. 三角比 2. 三角比の相互関係 3. 三角比の拡張	2次方程式の解き方として、因数分解利用、解の公式利用を理解している。2次関数のグラフとx軸の共有点の座標が求められる。 直角三角形において、正弦、余弦、正接が求められる。 既知である鋭角の三角比を、鈍角の場合に拡張して考察することができる。	定期考査、提出物 授業への取組等により問題処理力や理解力意欲等について評価する。	36
後期期末まで	三角形への応用 正弦定理 余弦定理 正弦定理と余弦定理の応用 三角形の面積 データの分析 1. データの代表値 2. データの散らばりと四分位範囲 3. 分散と標準偏差 4. データの相関	正弦定理を用いて三角形の辺の長さや外接円の半径が求められる。余弦定理や正弦定理を用いて、三角形の残りの辺の長さや角の大きさを求めることができる。 平均値や中央値、最頻値の定義や意味を理解し、それらを求めることができる。 四分位数の定義を理解し、それを求めることができる。 分散、標準偏差の定義とその意味を理解し、それらに関する公式を用いて、分散、標準偏差を求めることができる。	定期考査、提出物 授業への取組等により問題処理力や理解力意欲等について評価する。	32